

第13回 白川・緑川学識者懇談会

資料-1

みどりかわ 緑川総合水系 環境整備事業

- ① 事業採択後3年経過して未着工の事業
- ② 事業採択後5年経過して継続中の事業
- ③ 着工準備費又は実施計画調査費の予算化後3年経過した事業
- ④ 再評価実施後5年経過した事業
- ⑤ 社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業



1. 緑川流域の概要〔緑川の概要と特徴〕

【緑川の概要】

■各区間の特徴

【緑川本川上流部(源流～鵜ノ瀬堰付近)】

- ・九州中央山地国定公園等の豊かな**自然環境**に恵まれ、国指定重要文化財である**通潤橋、霊台橋など数多くの石橋が点在**し、観光地となっている。
- ・溪流部にはヤマメやカジカガエル等、緑川ダム湖にはワカサギ等の多様な魚類が生息し、ダム湖周辺にはミサゴ等の多様な鳥類が飛来している。

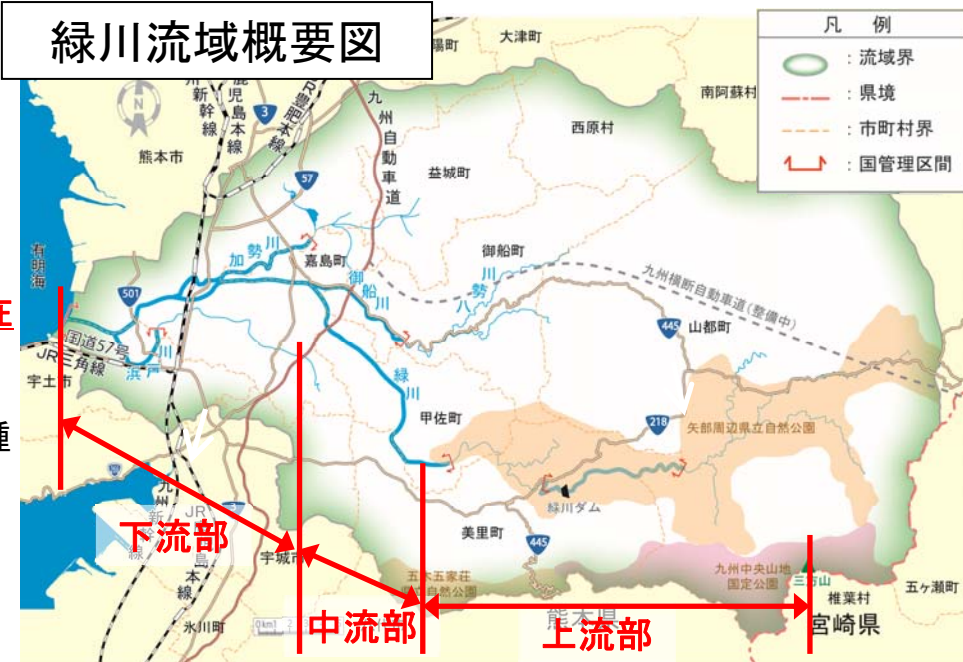
【緑川本川中流部(鵜ノ瀬堰付近～高田堰)】

- ・**歴史的にも有名な鮎のやな場や、グラウンドゴルフ、キャンプやバーベキューが楽しめる河川公園**が点在している。
- ・細長い平地を緩やかに蛇行しながら流下し、瀬・淵が連続しており、アユ、オイカワ等が生息し、砂礫の多い瀬では**アユの産卵場**ともなっている。河畔林は**多様な生物の休息場・採餌場**を提供している。
- ・田園風景の中を交互する瀬・淵、砂礫河原、河畔林が織りなす**多様な自然**が広がっている。

【緑川本川下流部(高田堰～河口)】

- ・広大な熊本平野が広がり、**熊本県有数の穀倉地帯**となっており、**加藤清正による治水利水事業の構築物**が残っている。
- ・生態系豊かな干潟、ヨシ原および汽水域は、シギ・チドリ類の飛来数が多く、重要種であるアリアケシラウオ等の生息地であることから「**日本の重要湿地500**」に選定されている。

緑川流域概要図



- ・流域面積 : 1,100km²
- ・幹川流路延長 : 76.0km
- ・流域内市町村 : 4市8町1村
- ・流域内人口 : 約54万人
(平成27年国勢調査)

【支川浜戸川】

- ・九州中央山地国定公園からを水源として、緩やかに流下し、緑川本川の河口部に合流し、生態系豊かな干潟、ヨシ原が形成されている。
- ・昭和初期の治水事業の名残である旧河道部が残されている。
- ・昔から交易の場所として、歴史的遺構が残されている。
- ・主要道路、鉄道が縦貫し、**大型商業施設**が建設している。1

1. 緑川流域の概要〔緑川の利用状況〕

＜緑川の利用状況＞

- ◆ 緑川では四季を通して散策や釣りなどの日常的な利用をはじめ、河川敷では夏祭りや花火大会、御船川・加勢川では精霊流しなど、毎年恒例の行事が継続的に行われており、地域の交流拠点となっている。
- ◆ 歴史的、文化的な施設である川尻船着場や中無田閘門は、川尻の昔ながらの町並みとあわせて観光の名所として様々なイベントが開催され、熊本市内外からの人々で賑わっている。
- ◆ ピクニックや水遊び、グラウンドゴルフ等が楽しめる「津志田河川自然公園」や「グリーンパル甲佐」等のスポットがたくさんあり、緑川流域内外の多くの人で賑わっている。
- ◆ 緑川旧河道の河川敷にある浜戸川運動広場には、アーチェリー場、グラウンドゴルフ等のスポーツ・イベント広場として利用されている。
- ◆ 緑川流域では日頃より水辺空間を活かしたリバースクールやカヌー体験、環境学習、安全講習等の活動や流域一斉清掃「緑川の日」が行われている。



川尻精霊流し(熊本市)



川尻地区大手永市(熊本市)



津志田河川自然公園(甲佐町)



グリーンパル甲佐(甲佐町)

1. 緑川流域の概要〔緑川水系の目標〕

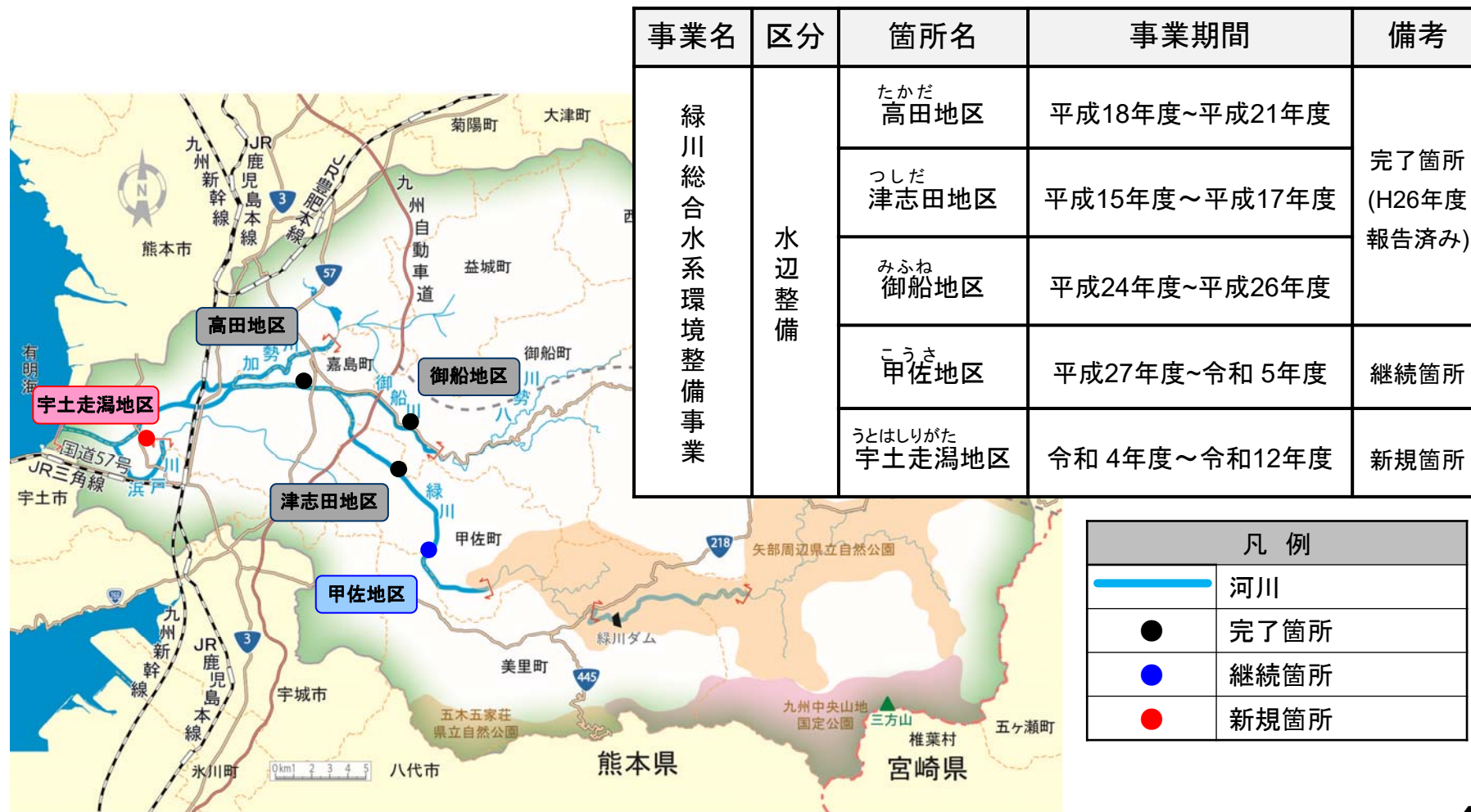
＜河川環境の整備と保全に関する目標＞（緑川水系河川整備計画抜粋）

- ◆河川環境に関しては、動植物の生息・生育環境や繁殖地である溪流、瀬・淵、河岸、河畔林、河口干潟、ヨシ原、旧河道及び周辺環境等、多様な河川環境の保全・再生を目指します。
- ◆水質については、環境基準を満足する良好な水質を維持するとともに流域全体で更なる水質の向上を図ります。
- ◆河川空間の整備と適正な利用については、沿川地域の現状を踏まえ、活力ある地域づくりに資する川づくりを目指します。また、子供たちをはじめ、地域住民等が安全に安心して利用できる人と川とのふれあいの場の保全・創出に努めます。
- ◆良好な景観の維持・形成については、緑川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす河川景観の保全に努めるとともに、^{くつわども}轡塘等の沿川各地に残る歴史的治水施設、歴史的街並み等に見られる文化景観と調和のとれた河川景観の形成を目指します。

1. 緑川流域の概要〔緑川総合水系環境整備事業の概要〕

＜事業評価(再評価)対象事業の概要＞

今回は、^{こうさ ちく}甲佐地区水辺整備(継続箇所)、及び、^{う と はしりがた ちく}宇土走潟地区水辺整備(新規箇所)を事業評価(再評価)に諮るものである。



2. 甲佐地区(水辺整備)の概要〔継続箇所〕

＜継続箇所の概要＞

1) 事業の必要性等

- ◆ 甲佐地区に隣接するグラウンドゴルフ場の利用は多いが、様々な利用ができる憩いの場が求められている。甲佐地区では、グラウンドゴルフ場や周辺からの緑川へのアクセス性、地面の凹凸や水たまりなどの河川利用時の利便性や安全性が十分に確保されていない状況であったため、アクセス性、高水敷の有効活用、安全性等の確保が望まれている。
- ◆ 地域の観光資源と一体となり、流下能力向上等の取り組みにあわせた河川空間を整備することで、地域の活性化と安全安心に資するとともに、河川管理の円滑化、河川利用の安全性の向上を図ることが可能となる。

【事業計画範囲】



【整備前の状況】

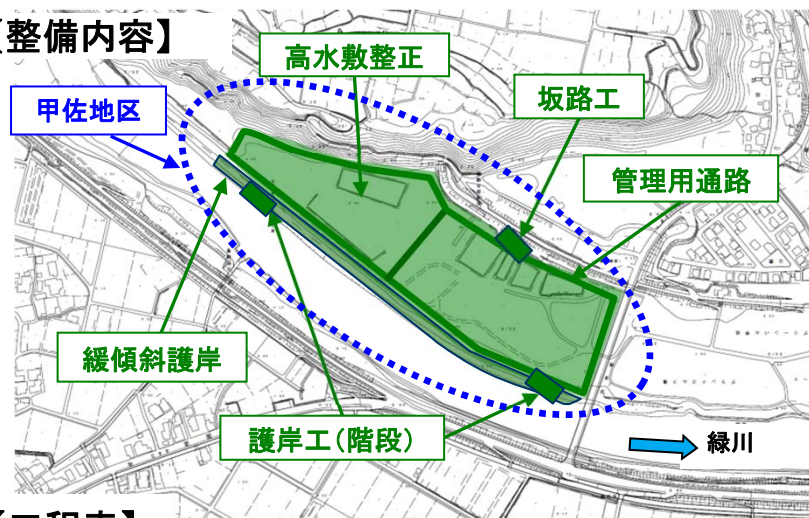


2. 甲佐地区(水辺整備)の概要〔継続箇所〕

2) 事業の概要・目的

◆緑川とグラウンドゴルフ場の周辺の魅力を活かした地域活性化、様々な世代が集う水辺拠点を創造し地域交流の促進を図るとともに、河川利用者の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、緩傾斜護岸、護岸工(階段)、坂路工、管理用通路、高水敷改正の整備を実施している。

【整備内容】



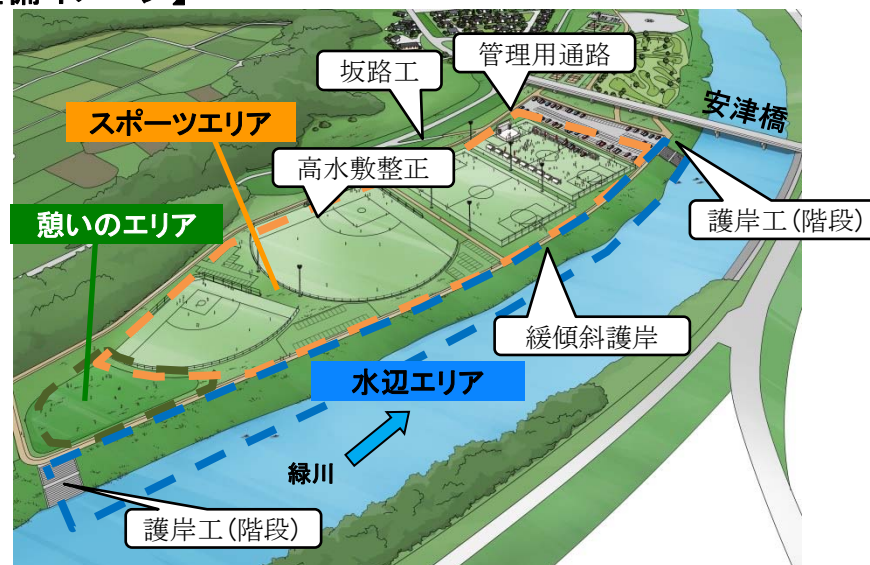
【工程表】

工 種	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
緩傾斜護岸					令和元年10月に サッカー場供用開始				
護岸工(階段)					令和2年8月にテニ スコート供用開始				
坂路工									
管理用通路									
高水敷改正									
測量設計等									
モニタリング等									

【概要】

位置	緑川 24k400～25k200付近
事業区分	水辺整備
主な整備内容	緩傾斜護岸、護岸工(階段)、坂路工、管理用通路、高水敷改正等
事業費	5.1億円
整備完了年	平成30年度
事業期間	平成27年度～令和5年度

【整備イメージ】



2. 甲佐地区(水辺整備)の概要〔継続箇所〕

3) 事業の投資効果

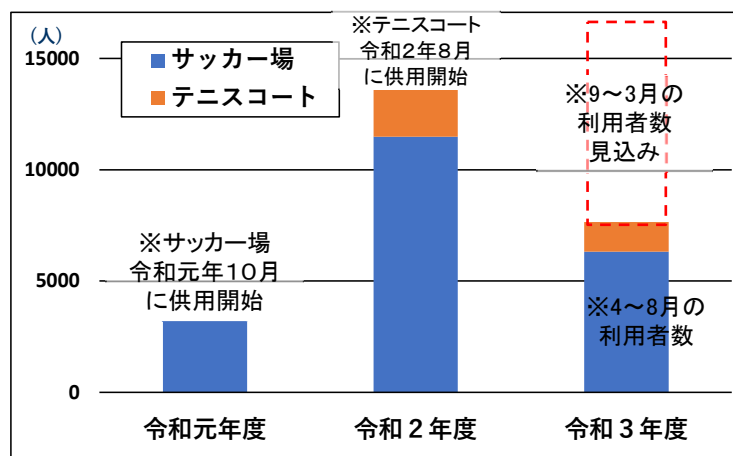
- ◆平成30年度に高水敷整正、坂路工、護岸工、管理用通路、緩傾斜護岸の整備完了後、甲佐町が総合運動公園としてサッカー場、テニスコート、遊歩道を整備し、令和元年度より順次供用開始している。
- ◆供用開始された箇所から、順次、中体連や国体予選会のほか、様々な大会などに利用されており、甲佐町内外から年間一万人以上の多くの方に利用されている。
- ◆現在、甲佐町において野球場・ソフトボール場、管理棟の整備に着手しており(令和4年度に供用開始予定)、今後も利用者の増加が見込まれる。



甲佐地区整備状況(R3.3)

供用後に開催された主な大会

サッカー場 (令和元年10月に供用開始)	・皇后杯熊本大会 ・県サッカー協会主催大会 ・県高校女子サッカー選手権 ・KFA主催大会 ・U-12女子サッカー選手権大会 ・JFA U-15サッカーリーグ熊本 ・U-18女子サッカー選手権大会 ・熊日学童オリンピック女子サッカー ・シャイニングリーグ ・O-40シニアリーグ、他
テニスコート (令和2年8月に供用開始)	・国体予選会 ・郡中体連 ・協会長杯(中学生) ・3県対抗テニス大会 ・宇城上益城中学生選手権 ・熊工主催大会、他



利用者数の年次推移(サッカー場・テニスコート)



サッカー場での大会開催状況
(天然芝と人工芝の2面を整備)

2. 甲佐地区（水辺整備）の概要〔継続箇所〕

4) 事業の推進体制

- ◆平成26年7月に地元関係者、学校関係者、甲佐町、国土交通省の連携のもと、「甲佐地区かわまちづくり協議会」を設立し、甲佐地区の整備プランや整備後の維持管理・利活用等について活発な議論を行っている。
- ◆今後、甲佐町総合運動公園として令和4年度に全面供用開始を予定しており、各種スポーツ大会の拠点、活動の場として利用していくことを予定している。
- ◆整備対象箇所では、現在においても毎年緑川の日により地元住民による河川一斉清掃が実施されており、今後も継続した地域の協力が見込まれる。
- ◆事業範囲は、甲佐町が占用し、管理を行っている。



甲佐地区かわまちづくり協議会の開催状況



サッカー場の利用状況



テニスコートの利用状況



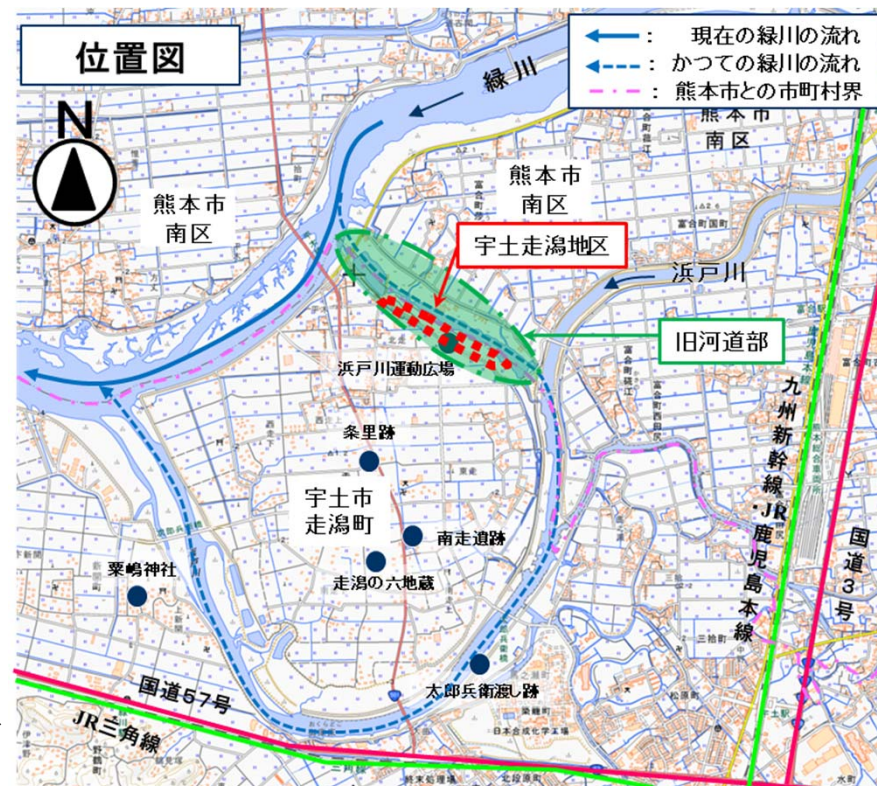
住民による一斉清掃

3. 宇土走潟地区(水辺整備)の概要〔新規箇所〕

＜新規箇所の概要＞

1) 事業の必要性等

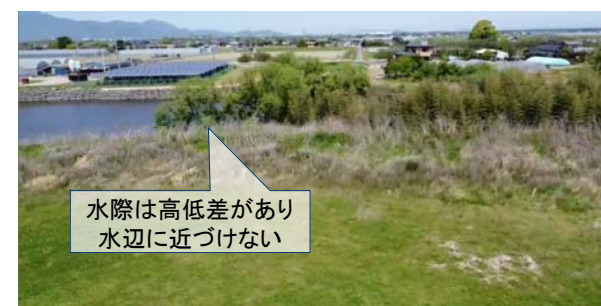
- ◆宇土走潟地区は、周囲に「南走遺跡」や「条里跡」等の文化財・史跡が残り、重要湿地であるヨシが繁茂しています。
- ◆旧河道部は、浜戸川運動広場はアーチェリーやグラウンドゴルフ等のスポーツ・イベント広場に利用されている。
- ◆宇土市では、宇土都市計画区域マスタープランにおいて、河川親水空間の整備など地域資源を有効活用した潤いあふれる美しい景観創出、水害発生に充分に対応できる治水対策や水辺環境形成を目指しており、水害対策を行いつつ美しい水辺景観・水辺環境形成に対する期待が高まっている。
- ◆しかし、宇土走潟地区は水際まで高低差があり、樹木が繁茂しているなど安全に利用できない状況にある。そのため、既存の環境を活かし、安心して水辺利用できる親水空間を整備し、市境を越えた交流ができる賑わいある水辺拠点の創出が望まれている。



河岸に通路が無く、草木が繁茂しているため、安全に水辺を見通せず、通行できない



高水敷には凹凸があり安全に利用できず、広いスペースを十分に活用できていない



水際は高低差があり、アクセス路がないため、安全に水辺に近づけない

3. 宇土走潟地区（水辺整備）の概要〔新規箇所〕

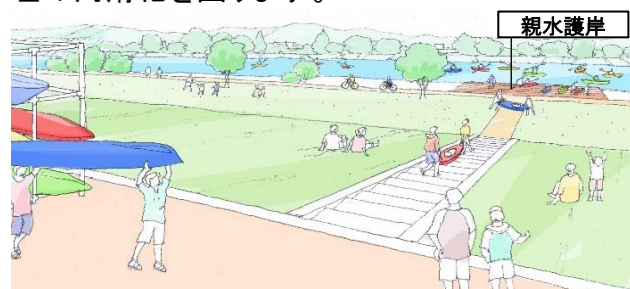
2) 事業の概要・目的

◆緑川水系緑川、浜戸川の走潟地区において、緑川旧河道部のポテンシャルを活かしながら、利用者の安全・安心を向上させながら地域の活性化が両立した水辺拠点が求められています。

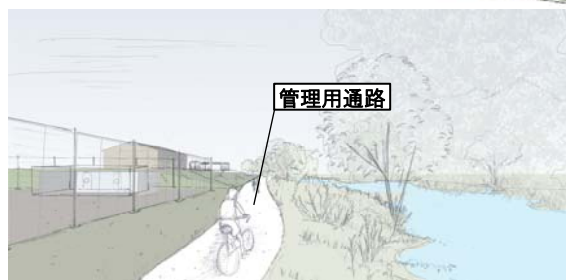
◆宇土市の宇土都市計画地域マスタープランと連携し、親水利用、祭り、行事等の賑わいのある水辺拠点として、親水護岸、管理用通路、高水敷整正等の整備を予定しています。

◆周囲にある歴史的遺構である「南走遺跡」、「条里跡」等とサイクリングコースとして連携を図ります。

◆この整備により、河川景観の向上、河川利用等の安全向上、河川管理の円滑化を図ります。

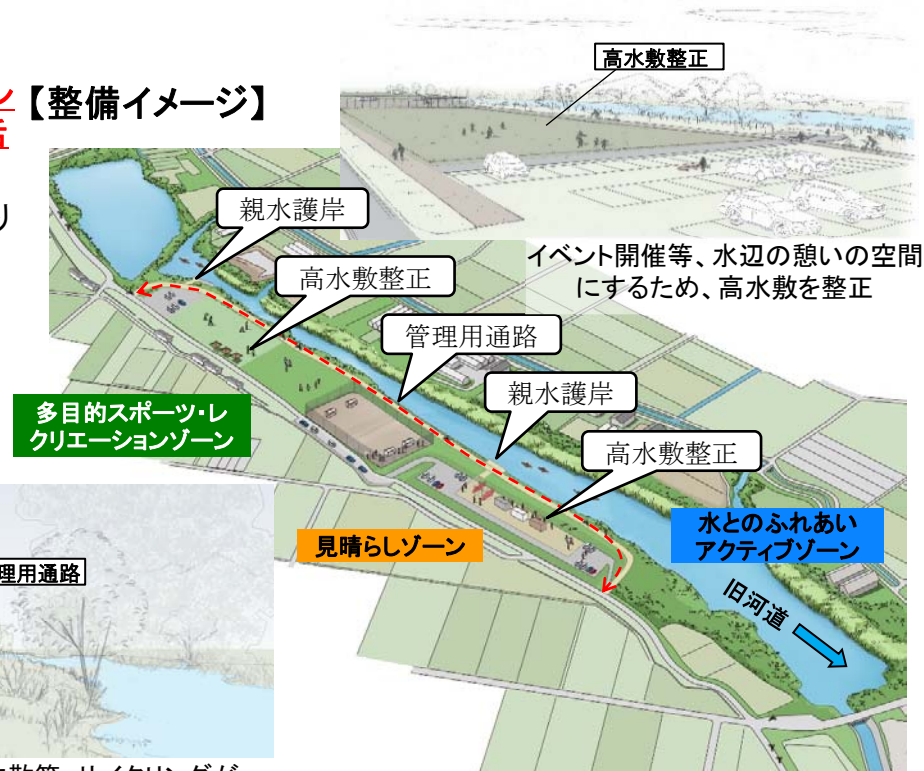


安全に水辺を利用できるようにするため、階段状の親水護岸を整備



水辺を眺めながら安全に散策・サイクリングができるようにするため、管理用通路を整備

【整備イメージ】



【概要】

位置	緑川旧河道
事業区分	水辺整備
主な整備内容	親水護岸、管理用通路、高水敷整正等
事業費	2.4億円
整備完了年	令和7年度
事業期間	令和4年度～令和12年度

【工程表】

工種	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
親水護岸									
管理用通路									
高水敷整正									
測量設計等									
モニタリング等									

3. 宇土走潟地区（水辺整備）の概要〔新規箇所〕

3) 事業の推進体制

- ◆令和2年6月より地元住民代表や学校関係者、宇土市、国土交通省により構成された「走潟地区かわまちづくり協議会」「走潟地区かわまちづくり実行委員会」を開催し、整備の方向性や利活用・維持管理について意見交換を行い、令和3年8月には「宇土走潟地区かわまちづくり計画」が登録された。
- ◆かわまちづくり計画登録後も、協議会等を開催し、整備内容、利活用、維持管理に関する協議を行う予定としており、今後も引き続き地域の協力が見込まれる。
- ◆整備対象箇所は宇土市が占用する予定であり、現在においても地域住民等を主体としたアーチェリーやグラウンドゴルフ等のスポーツ・イベント広場として利用されており、清掃活動も実施されている。



グラウンドゴルフによる利用状況



アーチェリーによる利用状況



カヌー体験による利用状況



地域住民による清掃活動



かわまちづくり実行委員会 現地ワーキング



かわまちづくり実行委員会 開催状況

4. 前回評価時からの変化

※宇土走潟地区水辺整備の追加

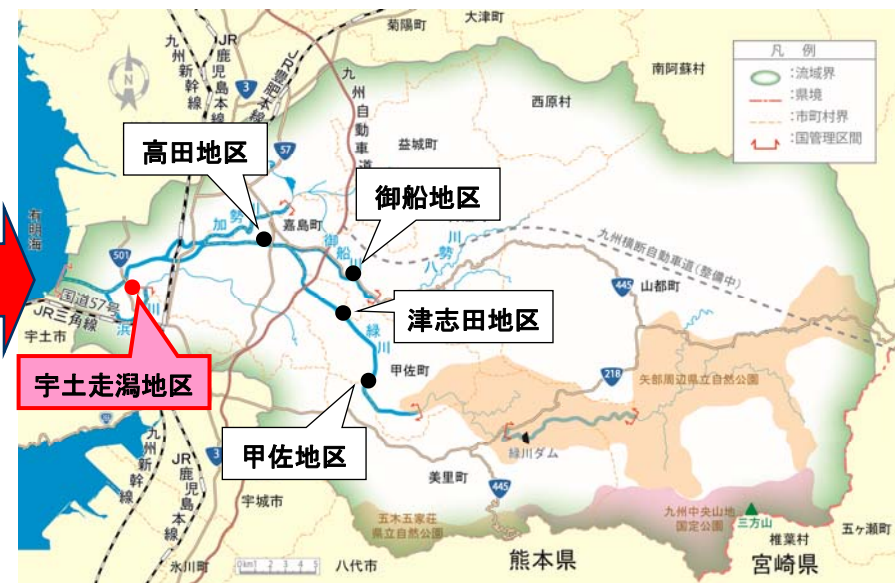
○宇土市では、宇土都市計画区域マスタープランにおいて、河川等の親水空間の整備など地域資源の有効活用により潤いあふれる美しい景観の創出を目指している。この取組と連携し、緑川・浜戸川の自然環境等を活かし、安心して水辺利用できる親水空間、宇土市中心部や熊本市からの市境を越えた交流ができる賑わいのある水辺拠点の創出するための水辺整備が必要となった。このため、今回宇土走潟地区の水辺整備が新規事業として追加された(事業費2.4億円)。

【整備箇所(宇土走潟地区)の追加】

＜前回評価時の整備予定箇所＞



＜今回評価時の整備予定箇所＞



□ : 前回と同じ整備箇所 ■ : 今回追加した整備箇所

4. 前回評価時からの変化

項目	前回評価時 (平成29年度)	今回評価時 (令和3年度)	変更理由
総事業費	約15.4億円 高田地区 : 約4.4億円 津志田地区 : 約1.4億円 御船地区 : 約4.5億円 甲佐地区 : 約5.1億円	約17.8億円 高田地区 : 約4.4億円 津志田地区 : 約1.4億円 御船地区 : 約4.5億円 甲佐地区 : 約5.1億円 宇土走潟地区 : 約2.4億円	宇土走潟地区の追加に伴う変更
事業完了年	令和5年度	令和12年度	
B/C	5.1	5.9	
B(便益)	104.5億円	193.2億円	
C(費用)	20.6億円	32.5億円	

※B/Cの算出は、便益を費用で除算することにより算出する。便益はアンケート調査によって求めた年支払い意思額と便益が及ぶ世帯数を積算し、これを社会的割引率を考慮し完成後50年分を足し合わせるにより算出する。費用は社会的割引率等を考慮した事業費と完成後50年分の維持管理費を足し合わせるにより算出する。

※各事業費の四捨五入により、総事業費と各事業費の合計があわない箇所がある。

5. 事業の投資効果〔費用対効果等〕

＜費用対効果等＞

	事業費	主な整備内容	便益(B)	費用(C)	B/C
全事業	17.8億円	—	193.2億円	32.5億円	5.9
完了事業	10.3億円	—	133.1億円	23.5億円	5.7
水辺整備	10.3億円	—			
高田地区	4.4億円	高水敷切り下げ、管理用通路、護岸			
津志田地区	1.4億円	管理用通路、護岸			
御船地区	4.5億円	管理用通路、高水敷整正、護岸、水制工、床固工 (分散型落差工)			
継続事業	7.5億円	—	60.1億円	9.0億円	6.7
水辺整備	7.5億円	—	60.1億円	9.0億円	6.7
甲佐地区	5.1億円	高水敷整正、坂路工、護岸工(階段)、 管理用通路、緩傾斜護岸、モニタリング調査	10.2億円	6.6億円	1.5
宇土走潟地区	2.4億円	親水護岸、管理用通路、高水敷整正、 モニタリング調査	49.9億円	2.4億円	20.9
残事業			49.9億円	3.6億円	13.9

※甲佐地区はモニタリングのみであり、残事業の便益は見込んでいない

	アンケート 実施年度	アンケート 配布数	有効 回答数	集計範囲	集計 世帯数	支払い意思額 (円／月・世帯)
甲佐地区	平成26年度	1,500	202	半径10km圏内	8,791	343
宇土走潟地区	令和3年度	1,500	300	半径10km圏内	64,278	298

5. 事業の投資効果〔まとめ〕

《効果名》	【効果の概要】
① 効果名	① 効果の概要
② 効果名	② 効果の概要
③ 効果名	③ 効果の概要
④ 効果名	④ 効果の概要
⑤ 効果名	⑤ 効果の概要
⑥ 効果名	⑥ 効果の概要
⑦ 効果名	⑦ 効果の概要
⑧ 効果名	⑧ 効果の概要
⑨ 効果名	⑨ 効果の概要
⑩ 効果名	⑩ 効果の概要
⑪ 効果名	⑪ 効果の概要
⑫ 効果名	⑫ 効果の概要
⑬ 効果名	⑬ 効果の概要
⑭ 効果名	⑭ 効果の概要
⑮ 効果名	⑮ 効果の概要
⑯ 効果名	⑯ 効果の概要
⑰ 効果名	⑰ 効果の概要
⑱ 効果名	⑱ 効果の概要
⑲ 効果名	⑲ 効果の概要
⑳ 効果名	⑳ 効果の概要
㉑ 効果名	㉑ 効果の概要
㉒ 効果名	㉒ 効果の概要
㉓ 効果名	㉓ 効果の概要
㉔ 効果名	㉔ 効果の概要
㉕ 効果名	㉕ 効果の概要
㉖ 効果名	㉖ 効果の概要
㉗ 効果名	㉗ 効果の概要
㉘ 効果名	㉘ 効果の概要
㉙ 効果名	㉙ 効果の概要
㉚ 効果名	㉚ 効果の概要
㉛ 効果名	㉛ 効果の概要
㉜ 効果名	㉜ 効果の概要
㉝ 効果名	㉝ 効果の概要
㉞ 効果名	㉞ 効果の概要
㉟ 効果名	㉟ 効果の概要
㊱ 効果名	㊱ 効果の概要
㊲ 効果名	㊲ 効果の概要
㊳ 効果名	㊳ 効果の概要
㊴ 効果名	㊴ 効果の概要
㊵ 効果名	㊵ 効果の概要
㊶ 効果名	㊶ 効果の概要
㊷ 効果名	㊷ 効果の概要
㊸ 効果名	㊸ 効果の概要
㊹ 効果名	㊹ 効果の概要
㊺ 効果名	㊺ 効果の概要
㊻ 効果名	㊻ 効果の概要
㊼ 効果名	㊼ 効果の概要
㊽ 効果名	㊽ 効果の概要
㊾ 効果名	㊾ 効果の概要
㊿ 効果名	㊿ 効果の概要

《効果名》	【効果の概要】
① 効果名	① 効果の概要
② 効果名	② 効果の概要
③ 効果名	③ 効果の概要
④ 効果名	④ 効果の概要
⑤ 効果名	⑤ 効果の概要
⑥ 効果名	⑥ 効果の概要
⑦ 効果名	⑦ 効果の概要
⑧ 効果名	⑧ 効果の概要
⑨ 効果名	⑨ 効果の概要
⑩ 効果名	⑩ 効果の概要
⑪ 効果名	⑪ 効果の概要
⑫ 効果名	⑫ 効果の概要
⑬ 効果名	⑬ 効果の概要
⑭ 効果名	⑭ 効果の概要
⑮ 効果名	⑮ 効果の概要
⑯ 効果名	⑯ 効果の概要
⑰ 効果名	⑰ 効果の概要
⑱ 効果名	⑱ 効果の概要
⑲ 効果名	⑲ 効果の概要
⑳ 効果名	⑳ 効果の概要
㉑ 効果名	㉑ 効果の概要
㉒ 効果名	㉒ 効果の概要
㉓ 効果名	㉓ 効果の概要
㉔ 効果名	㉔ 効果の概要
㉕ 効果名	㉕ 効果の概要
㉖ 効果名	㉖ 効果の概要
㉗ 効果名	㉗ 効果の概要
㉘ 効果名	㉘ 効果の概要
㉙ 効果名	㉙ 効果の概要
㉚ 効果名	㉚ 効果の概要
㉛ 効果名	㉛ 効果の概要
㉜ 効果名	㉜ 効果の概要
㉝ 効果名	㉝ 効果の概要
㉞ 効果名	㉞ 効果の概要
㉟ 効果名	㉟ 効果の概要
㊱ 効果名	㊱ 効果の概要
㊲ 効果名	㊲ 効果の概要
㊳ 効果名	㊳ 効果の概要
㊴ 効果名	㊴ 効果の概要
㊵ 効果名	㊵ 効果の概要
㊶ 効果名	㊶ 効果の概要
㊷ 効果名	㊷ 効果の概要
㊸ 効果名	㊸ 効果の概要
㊹ 効果名	㊹ 効果の概要
㊺ 効果名	㊺ 効果の概要
㊻ 効果名	㊻ 効果の概要
㊼ 効果名	㊼ 効果の概要
㊽ 効果名	㊽ 効果の概要
㊾ 効果名	㊾ 効果の概要
㊿ 効果名	㊿ 効果の概要

①C V M手法による便益の算出：約149億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

①C V M手法による便益の算出：約149億円
（良好な景観の形成、人と自然の豊かな触れ合い活動の場の確保、河川空間利用の増進等）

②歴史的文化を活かした教育効果：周辺の文化財・史跡と一体となった新たな賑わい創出

P 9

②歴史的文化を活かした教育効果：周辺の文化財・史跡と一体となった新たな賑わい創出

P 9

③地域のにぎわいの創出 : 総合運動公園として地域内外からの活用
水辺イベントの開催の場
地域の祭り・行事等の文化交流の場としての活用

③地域のにぎわいの創出 : 総合運動公園として地域内外からの活用
水辺イベントの開催の場
地域の祭り・行事等の文化交流の場としての活用

③地域のにぎわいの創出 : 総合運動公園として地域内外からの活用
水辺イベントの開催の場
地域の祭り・行事等の文化交流の場としての活用

③地域のにぎわいの創出 : 総合運動公園として地域内外からの活用
水辺イベントの開催の場
地域の祭り・行事等の文化交流の場としての活用

④治水安全性の向上 : 河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P 6、P 10

④治水安全性の向上 : 河川空間の利用者の安全性向上、巡視・管理の円滑化

P 6、P 10

⑤良好な自然環境の保全　： 地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動

P 8、P 11

⑤良好な自然環境の保全　： 地域が主体となった河川周辺の除草・清掃活動

P 8、P 11

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B／C）	： 5. 9
継続事業（B／C）	： 6. 7

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B／C）	： 5. 9
継続事業（B／C）	： 6. 7

⑥費用対効果分析（算定に用いた効果①）

全体事業（B／C）	： 5. 9
継続事業（B／C）	： 6. 7

6. 事業の進捗の見込み・コスト縮減や事業手法、施設規模等の見直しの可能性

(1) 今後の事業展開

- ◆今後も地元自治体や地域住民等と協力して事業を進め、継続事業である甲佐地区水辺整備は令和5年度に完了予定である。新規事業である宇土走潟地区水辺整備では、令和4年度から事業に着手し、令和12年度に完了予定である。

(2) 今後の事業の進捗の見込み

- ◆宇土走潟地区では、事業進捗に支障となる課題はなく、令和2年6月に地元住民代表や学校関係者、熊本県、宇土市、国土交通省により構成された「走潟地区かわまちづくり協議会」「走潟地区かわまちづくり実行委員会」を設立し、アンケートにより住民意見聴取を行い、意見交換も行っているところであり、整備箇所の利活用方法や維持管理の役割分担等について今後も議論していく予定である。
- ◆甲佐地区では、平成26年7月より地域関係者（地元代表、学校関係、関係団体等）や地域自治体（上益城郡甲佐町）、河川管理者（国土交通省）が参加する「甲佐地区かわまちづくり協議会」が開催されていく予定である。
- ◆このように、これからも地域の協力体制が確立されており、今後も順調な事業進捗が見込まれる。

(3) 事業手法、施設規模等の見直しの可能性

- ◆宇土走潟地区の整備内容は、協議会や実行委員会において、計画段階から地域住民等と継続的に協議しながら、より具体的な整備内容を検討しているところである。
- ◆甲佐地区の整備内容については、計画段階から「甲佐地区かわまちづくり協議会」において、議論を重ねた上で、河川管理面、河川利用面を考慮した上での適切な整備内容となっており、現計画が最適と考えている。
- ◆このように、これからも河川管理面、河川利用面等を考慮した上での整備内容となっており、現計画が最適と考えている。

(4) コスト縮減の方策

- ◆近年の技術開発の進展に伴う新工法等の採用による新たなコスト縮減の可能性等を探りながら、事業を進めていく方針である。

7. 対応方針(原案)

緑川総合水系環境整備事業については、以下の効果が見込めることから、引き続き事業を継続することとしたい。

【水辺整備事業】

◆甲佐地区水辺整備（継続事業）について

- ①甲佐地区の有効活用について、町内外からの利用ニーズがあり、今後も利用者が見込める事業である
- ②甲佐町のまちづくり方針に沿った、スポーツ振興、健康増進に資する事業である
- ③供用区間は既に多くの利用がなされ、今後も施設が増加することから、
更に利用者の増加が見込まれる地域の賑わいの創出に資する事業である
- ④水辺へのアクセス性の向上等、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業である
- ⑤関係自治体、学校関係者、地域住民等が一体となって取り組んでいる事業である
- ⑥費用対効果についても確保されている（ $B/C = 1.5$ ）

◆宇土走潟地区水辺整備（新規事業）について

- ①宇土走潟地区の有効活用について、
アンケートから小中学生を含む多くの地域住民から利用ニーズが期待される事業である
- ②既存の環境を活かした親水空間、市境を越えた賑わいの創出に資する事業である
- ③アクセス性や回遊性向上等により、河川空間の利用者の安全性向上に資する事業である
- ④周辺の文化財・史跡と一体となった、新たな賑わいの創出に資する事業である
- ⑤維持管理に関する協議が継続的行われ、地域の協力体制が整っている事業である
- ⑥費用対効果についても確保されている（ $B/C = 20.9$ ）